

令和3年11月25日

不登校に関する調査研究協力者会議

京都市における不登校児童生徒への支援 及びスクールカウンセラー, スクールソーシャル ワーカーの活用について

京都市教育委員会

教育相談総合センター

カウンセリングセンター長

指導部生徒指導課担当課長

(子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部

育成推進課担当課長兼任)

公認心理師
臨床心理士

長谷川 智広

京都市の不登校児童生徒への支援施策

洛風中学校・洛友中学校

【不登校特例校】 【不登校特例校+夜間中学】
(いずれも生徒指導課の所管)

フリースクール等 民間団体

- 連携
- ・連携事業の実施
 - ・学校との連携促進 など

京都奏和高校

【不登校経験や様々な困りのある生徒を支える
新たな定時制・単位制高校】
(令和3年4月開校)

こども相談センターパトナ (京都市教育相談総合センター)

指導・支援
報告・相談

生徒指導と教育相談(カウンセリング)にか
かる部門及び教育支援センター(適応
指導教室)を一体化した施設。

- ・専門的な指導助言
- ・SC, SSWの派遣
- ・学生ボランティアの派遣 など

- ・対面, 電話, SNS等による相談事業
- ・ICTを活用した学習支援事業
- ・フリースクールと連携した家庭訪問事業 など

学 校

指導・支援
報告・相談

- ・登校支援委員会の設置
- ・家庭訪問
- ・GIGA端末を活用した支援 など

家庭・子ども

支援
相談

支援

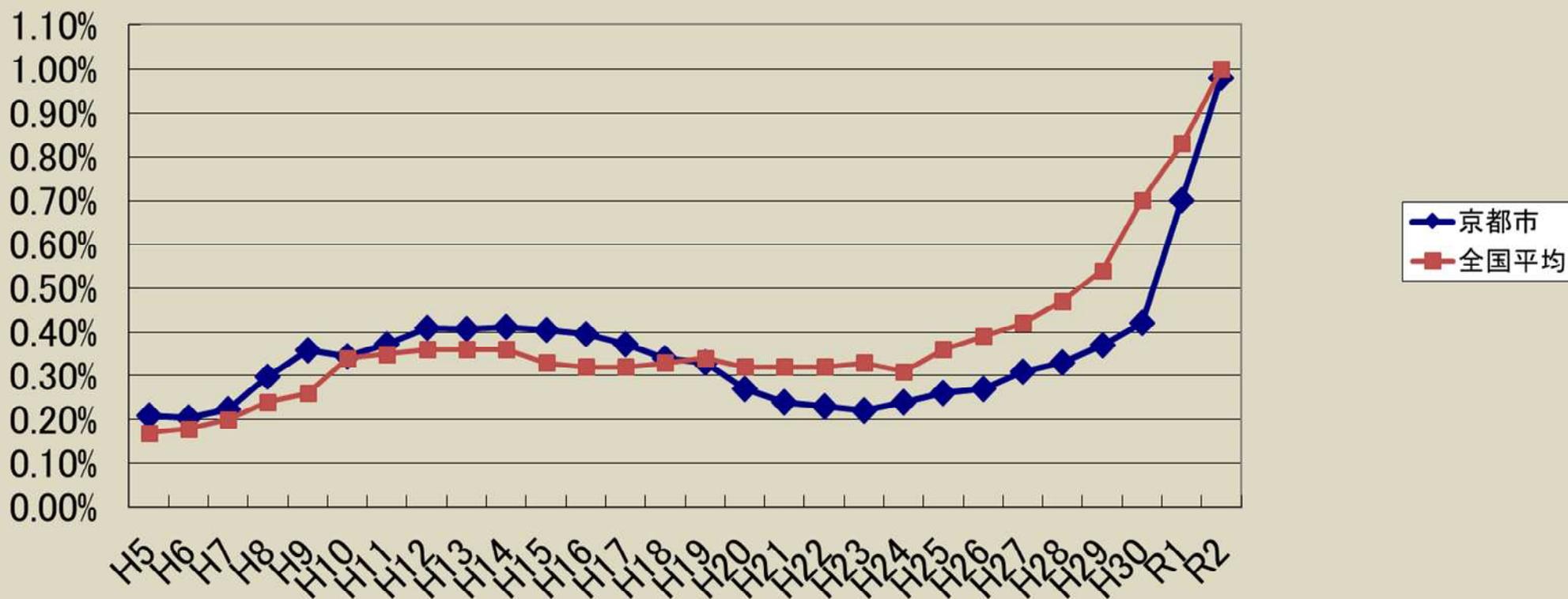
こども相談センターパトナについて

正式名称は、京都市教育相談総合センター。「生徒指導」と「教育相談(カウンセリング)」にかかる部門、及び教育支援センター(適応指導教室)「ふれあいの杜」を一体化した施設として、平成15年4月に開所。旧 初音中学校跡地を活用。京都市営地下鉄「烏丸御池駅」から約200m。



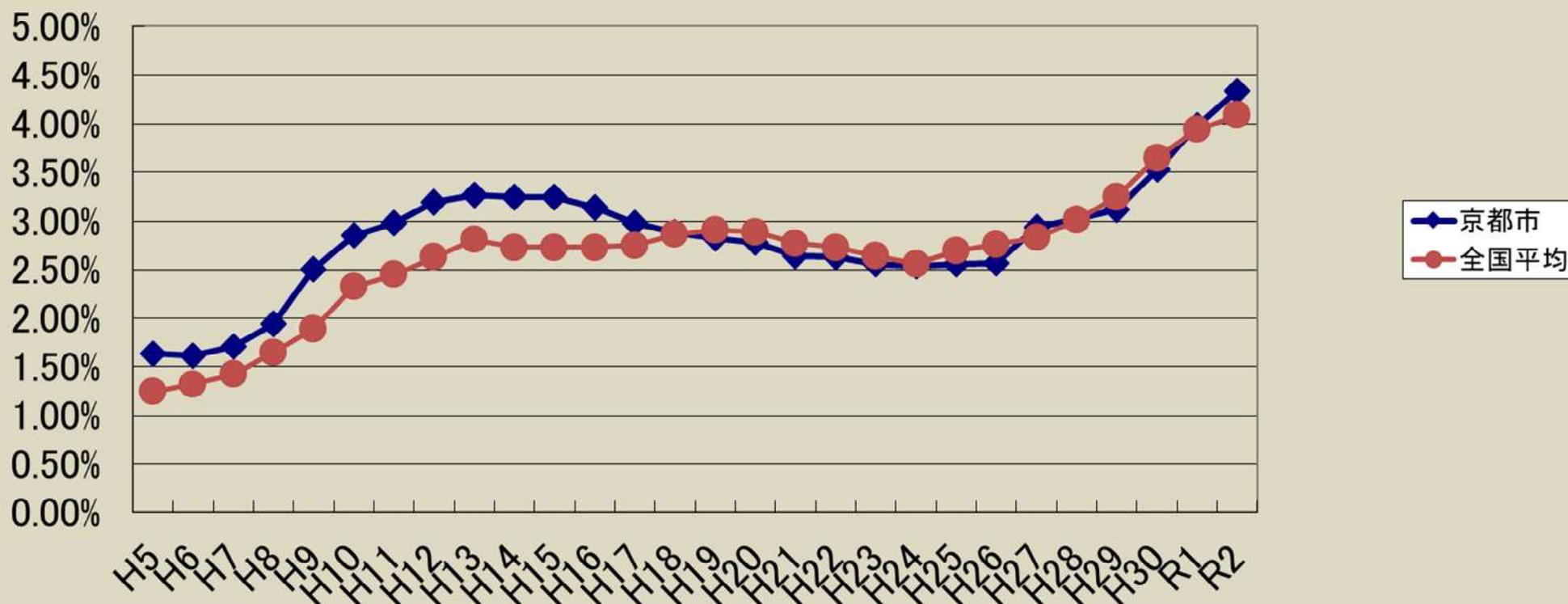
不登校児童在籍率の推移【小学校】

不登校児童在籍率推移(小学校)



不登校生徒在籍率の推移【中学校】

不登校生徒在籍率推移(中学校)



なぜ近年不登校が増加しているのか？

不登校の増加には様々な要因があるが、次のような困難である

①教育

社会全体の意識の変化・
多様化, 家庭内へのデジ
タル機器の普及などの
影響を無視できない！

なお、京都市では、平成26年度最後の令和2年6月に子どもの
ストレス等を把握するための「こころからのアンケート」を全市立
学校で実施。一部で注意を要する児童生徒がいたものの、おおむね前向きに学
校生活を送っていることが確認された。

スクールカウンセラーの配置状況の推移



スクールカウンセラー配置開始。当初は中学校1校への配置。以降、配置拡充。

全市立中学校への配置完了。

全市立高校への配置完了。

全市立総合支援学校への配置完了。

全市立小学校への配置完了。

一部小規模校を除き、年間280時間以上の配置。

SC配置・相談状況

○配置校数(R3):244校(全市立学校)

小学校:153校 中学校:64校

義務教育学校:8校 高等学校:11校

総合(特別)支援学校:8校

○配置人数(R3):174人

(うち、スーパーバイザー5名)

○相談件数(R2)

・児童生徒・保護者:5,291件

うち主訴が不登校:1,596件(約30.2%)

・教職員:6,479件

うち主訴が不登校:1,747件(約27.0%)

スクールソーシャルワーカーの配置状況の推移

平成

20年度 21年度

24年度

28年度

令和
元年度

スクールソーシャルワーカー
配置開始。当初は小学校
3校(3中学校区)への配置。
以降、配置拡充。

教員研修「学校でのソシヤ
ルワーク実践研修」開始。

SSW配置・活動状況

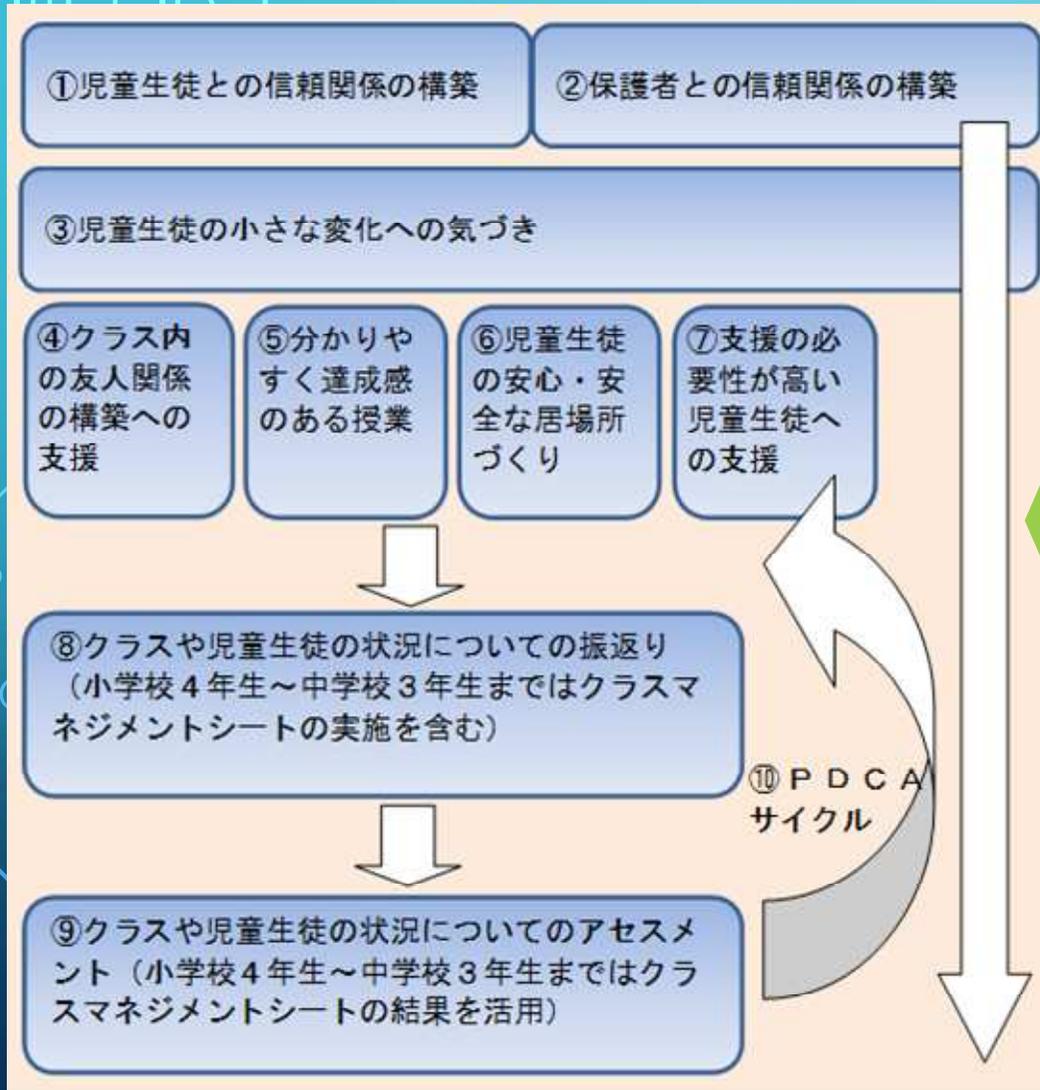
- 配置校数(R3):77校
(全中学校区+全定時制高校)
小学校:57校 中学校:9校
義務教育学校:8校 定時制高等学校:3校
- 配置人数(R3):54人
(うち、スーパーバイザー4人、派遣型1人)
- 支援対象児童生徒数(R2):1,508人
うち、継続支援:1,072人
うち、課題が不登校:404人
(約37.7%)

派遣型SSWの配置開始。

定時制高校への配置開始。

全市立中学校区への配置
完了。

京都市の不登校の未然防止に関する基本的考え方

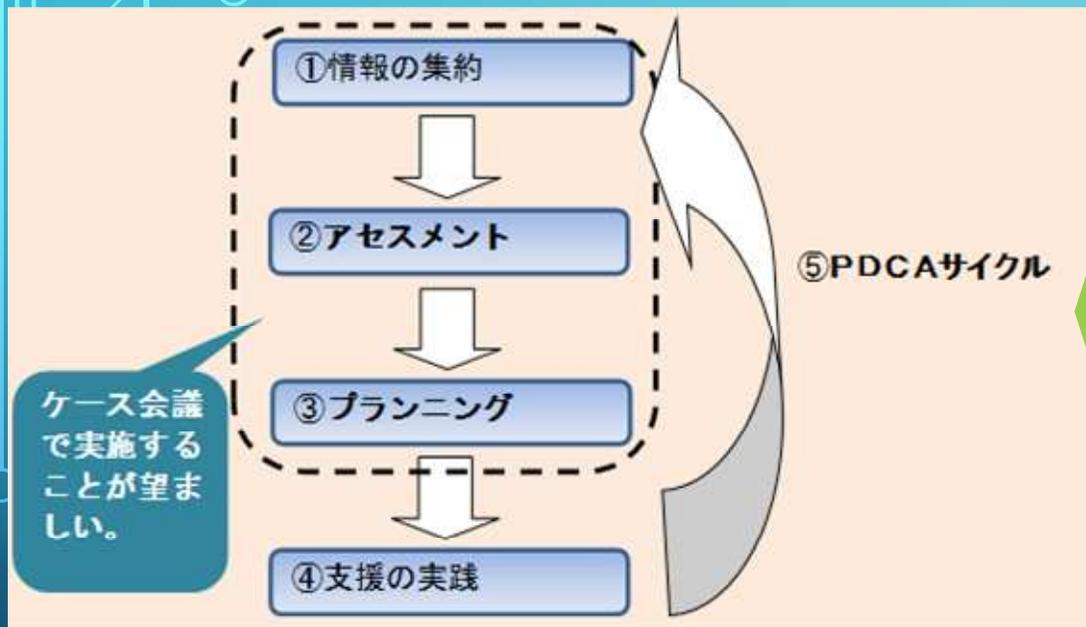


SC, SSWの関与

- ・授業観察
- ・教職員とのコンサルテーション
- ・心理教育の実施
- ・アセスメントシートの活用
- ・クラスマネジメントシートの活用など

「心の居場所づくりハンドブック」(京都市教育委員会)から抜粋

京都市の不登校児童生徒支援の基本的考え方



SC, SSWの関与

- ・ケース会議への参画
- ・教職員とのコンサルテーション
- ・カウンセリングの実施
- ・アセスメントシートの活用
- ・クラスマネジメントシートの活用
など

「心の居場所づくりハンドブック」(京都市教育委員会)から抜粋

心の居場所づくりハンドブック

不登校の未然防止や不登校児童生徒への支援について解説した教職員用指導資料。教育学，心理学，精神医学，ソーシャルワーク等の知見をベースに具体的な方策について記載。また，令和3年度には，GIGA端末等を活用した不登校児童生徒支援のあり方について記載した同ハンドブックの別冊を作成・配付した。

不登校や別室登校の子どもへの授業配信，オンラインでの行事参加などの取組が徐々に広がる。

- 1 作成年度 平成29年度(令和2年度に改訂)
- 2 配付対象 京都市立学校の全教職員(SC, SSW含む)
- 3 主な内容
 - ①児童生徒の心の居場所づくりの基本的な考え方
 - ②不登校の未然防止
 - ③不登校児童生徒への支援
 - ④京都市の支援施策
 - ⑤教育機会確保法や各種通知，要綱等の資料
 - ⑥京都市内の相談機関の一覧

心の居場所づくり ハンドブック

(別冊 登校支援ハンドブック)

～ 不登校の子ども一人ひとりに
寄り添った支援のために ～

令和2年4月
京都市教育委員会

クラスマネジメントシート

アンケート調査を通じ、学級担任等がクラスや児童生徒の状況を的確に把握し、学級経営などに生かすための京都市独自のツール。

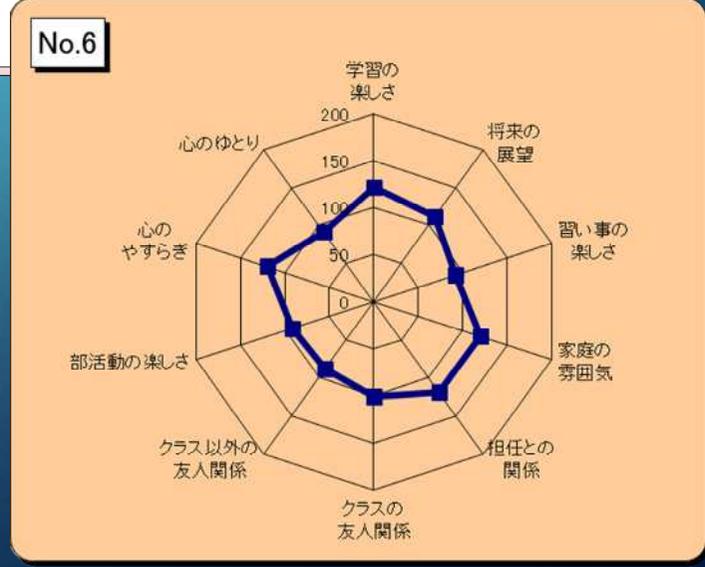
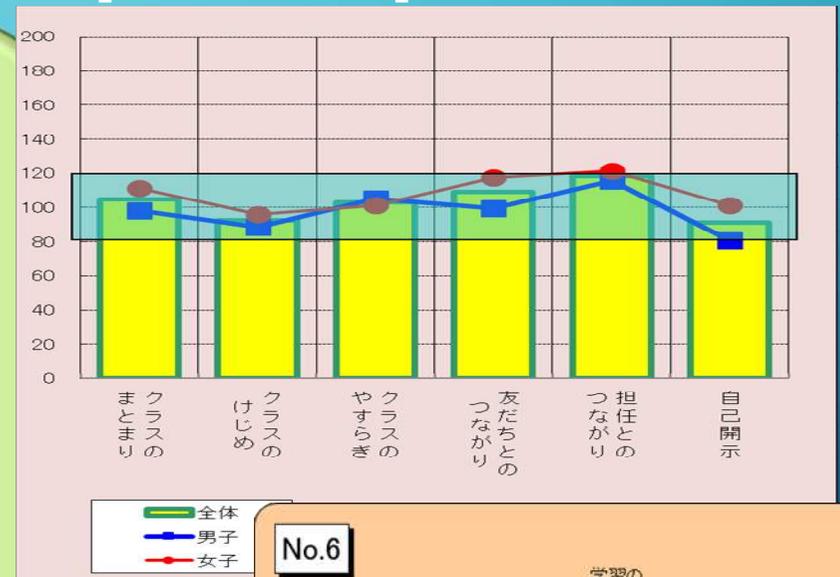
- 1 活用開始年度 平成25年度～
- 2 対象 小学校4年生～6年生, 中学生
- 3 内容

①学級認知尺度【学級の雰囲気, 風土】

児童生徒が自分の学級をどのように感じているかを把握するための尺度。

②生活適応感尺度【児童生徒個々人の適応度】

児童生徒が自分の毎日の生活をどのように感じているかを把握するための尺度。



成果と課題

	スクールカウンセラー	スクールソーシャルワーカー
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○コンサルテーションの日常化 ⇒効果的な課題解決, 教職員の資質向上 ○保護者や児童生徒が気軽に専門職に相談できる風土の醸成 ⇒課題解決や安心感へのつながり ○緊急時の迅速な心理支援 ⇒安心安全な学校体制の回復 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンサルテーションの日常化 ⇒効果的な課題解決, 教職員の資質向上 ○ケース会議の普及 ○アセスメントに基づく支援の広がり(アセスメントシートの活用) ⇒チーム学校としての効果的な支援の推進 ○関係機関との連携強化 ⇒より効果的な支援の実現
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い視野を持ち, 多様な支援の方法を身に着けた人材の確保・育成 ○十分な勤務時間数の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○単なる福祉の知識だけではなく, 子どもや家庭, 学校に対するソーシャルワークに精通した人材の確保・育成 ○十分な勤務時間数の確保

ご清聴, ありがとうございます。

